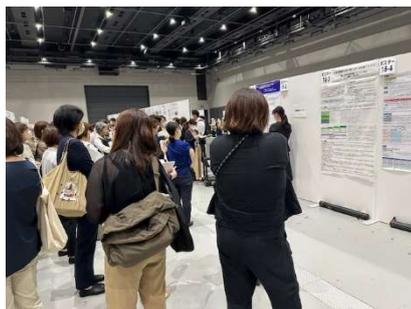


認定看護師ニュースレター第 80 号



9月27日から9月29日まで熊本城ホールにて開催された「第55回 日本看護学会学術集会」に参加してきましたので情報提供を行います。

「健康危機における看護の真骨頂 ～経験を糧に、次のステージへ～」大会テーマのもと、基調講演、特別講演3題、シンポジウム3題、交流集会4題、ランチョンセミナー15題、口演59群、ポスター68群、教育講演や特別企画講演などの講演がありました。11会場で同時進行のため、プログラム集を片手に長いエスカレーターに乗り会場周りをしました。

当院看護部からも7演題の発表を行いました。それぞれの発表者も緊張することなくとても良い発表で質問もたくさん受けました。また、私もメインホールの「多様で柔軟な働き方の実現に向けて」の交流会の場で講師として発表をさせていただきました。現在、看護師不足の時代に、いかに既存で働いてくれる職員が気持ちよく働けるように勤務環境や働き方を考えるのか、業務改善やDX、タスク・シフト/シェアを実現していくのか

を考える場となりました。

一番熱気があふれていたのはポスター会場でした。同時に6群のブースで発表が開始になり、1演題毎に人の動きもあり、ポスターを見ながらの質問も多く、発表側と一体感がありました。特に就業継続支援、看護教育、救急看護、認知症ケア、意思決定支援、看護補助者の教育など刺激を受ける内容も多くありました。

また、特別企画1では「令和6年能登半島地震企画 発災直後から今、そしてこれからを支える看護」のテーマで災害急性期に被災地で活動した保健医療福祉活動チームにおける看護師の役割や看護における連携の実際、看護支援の在り方や課題が報告されました。発災直後の情報の混乱、必要な看護ニーズの把握をどうするのか、外部からの支援を受けた後の調整などをそれぞれの立場から聞きました。2024年度より、感染症法および医療法の改正に伴い、都道府県知事の求めに応じて派遣される医療チームの仕組みが法定化され、「災害支援ナース」は法的に位置づけられるとともに、自然災害、感染症支援において新たな仕組みによる災害支援ナースの派遣体制が構築され、当院も協定を結び災害支援ナースも新たな研修を受け登録しました。九州でも大雨災害が多く、南海トラフ地震や津波など、支援を受ける側、支援を出す側になりうることも考えて災害看護を学ぶことと、災害支援ナースの確保が必要であるとさらに感じました。

特別企画3では『看護管理者集まれ！「私たちが創る看護の未来」～看護管理者が政策実現のカギ』のテーマで、現日本看護協会会長、前会長、元会長2名の計4名で討論され、看護の質確保などに取り組んできた政策などが話されました。「看護管理者は、日々これらの課題解決に向けた取り組みを進めているところであるが、これらの課題は、各施設での取り組みで解決できるものばかりではない。看護を取り巻く諸課題を解決し、国民により質の高い看護を安全に提供するためには、看護の仕組みそのものの変革も視野に入れることが重要である。日本看護協会では、制度や政策への働きかけ、国へ政策提言を行っているが、実現に向けては、現場の看護管理者とともに、看護界が一丸となって取り組むことが不可欠である。」と述べられたように、今後も看護管理者、認定看護管理者、日本看護協会看護師職能委員として、地域を取り巻く看護の場の問題点を取り上げ、看護協会から政策を上げていけるように情報を提供できる役割を担っていきたいと思いました。

今後も、認定看護管理者および看護管理者として、柔軟にかつ冷静に、社会の動向を見ながら、法人・病院・看護部、地域住民の保健・医療・福祉・介護に携わりたいと思います。

